熊日1965.02.19

水俣港改修を再開

水俣市民の長い間の念願だった水俣港の改修工事がようやく再開され、十七日から新岸壁付近で削岩船「相模丸」が活動を始めた。同船はロープをつけた重さ数トンの鉄柱を海底に打ち込む。鉄柱の先は弾丸のようにとがっており、これで海底の岩石をこわす。月末までに約七千立方㍍の岩をくだくという。削岩工事とともに新岸壁の南、緑が鼻側に高さ二㍍の堤防を築いている。この工事も月末には完成するので、三月にはしゅんせつ船「長門丸」が入港、幅五十㍍、長さに三百㍍の航路、泊地区域を水深六・五㍍にするため、七万立方㍍の泥土しゅんせつをはじめることになっている。四月には完成し、五千トン級の大型船一隻は接岸可能となる。本年度の工費は三十八年の繰り越し予算一千七百万円と三十九年度分一千六百万円の計三千三百万円。

なお新年度から県は、総工費三億一千万円で、新五カ年計画で同港の改修を行ない、百㍍の新岸壁をさらに二百㍍延長、十二万八千八百平方㍍（四十一万七千立方㍍）の泊地、航路など港内をしゅんせつ、五千トン級二隻が接岸できるようにする計画。